

西中学校区

<p>交流事業として、実施できたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育支援教員(中学校・数学)の配置による小学校教員(算数)とのT・T授業 ・中学校での授業体験(小6児童対象) ・中学校入学予定児童授業参観(中学校教員) ・合唱の交流(中学生が小学校を訪問) ・小中連携・一貫推進委員会
<p>乗り入れ授業(算数)</p>	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校児童の中学校入学への不安を少なくすることができている。 ○小中学校の教員が、互いの指導方法を知るだけでなく、指導方法について互いに学ぶことができた。 ○中学校教員がT1として専門性を生かした授業を実施することにより、児童の中学校数学への抵抗が少なくなり、児童の学習意欲を高めることができた。 ○配慮を要する児童も含め、児童の学習状況やつまずきなどを中学校教員が知ることができ、中学校入学後の指導に生かすことができる。 ○小中学校9年間を見通した教育課程を確認することができた。 ・小中一貫教育支援員が週1回の配置のため、時間割を組むことが難しい。 ・小学校教員との打ち合わせ時間がなかなか持てない。 ・学校行事等の関係により、年間の配置日数が少なくなり、継続しての指導が難しい。
<p>カリキュラム編成に取り組んでいる教科・領域等(算数・数学)</p>	<p>【成果と課題】</p> <p>9年間の学習内容は確認できたが、小学校での学習が中学校での学習にどうつながっていくかを詳しく確認できるところまでは、まだ至っていない。</p>
<p>令和2年度の取組について</p>	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中一貫支援教員の配置による小中教員間の交流と小学校教員の指導力の向上が図られた。 ○中学校区で共通したスマートフォン等の利用状況アンケートを作成、実施し、集計結果の分析(小5・小6・中1)による次年度への取組の内容の確認ができた。 ○小中一貫教育推進委員会(3校の校長・教頭・教務担当者が参加)を年3回計画し、開催することができた。 ○西中学校区での目指す児童生徒像を共通理解し、小中一貫教育の基本方針(案)を検討、作成することができた。 ・コロナ禍のため、なかなか会議を開催することができなかった。 ・計画した児童生徒や教職員の交流がほとんど実施できなかった。 ・小中学校間での打ち合わせの時間を、どう設定していくかが大きな課題である。
<p>令和3年度に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 小中合同引き渡し訓練、あいさつ運動、初任者の授業交流、学校研究発表、学校運営支援者協議会で関わり合う、アセス(3校ともアセスから児童生徒の読み取りをし、生かしている)を行っていく。 * キャリアの計画…R3はまとめていく予定 * カリキュラムについては、算数・数学でつまずきを分析し、そこから進めたいと考えている。

※アセス…学校環境への適応感がわかるもの